

令和5年度 北区立うめのき幼稚園 自己評価報告書

令和6年1月22日
園長 篠澤 恵理

1 自己評価の結果と分析

*評価は、ABCの3段階で実施（達成率）A:概ね達成（80%） B:達成のため改善（60%） C:取組不十分
<教育課程の編成について>

評価項目	R4	R5	結果	分析
教育目標 人間性豊かな 幼児の育成	A 96% B 4% C 0%	A 96% B 4% C 0%	<ul style="list-style-type: none"> 日常的に運動遊びの機会を増やし、体力が向上した。 異年齢交流を積極的に実践し、連携が深まった。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々に応じた対応により、幼児が安心して自己発揮できた。計画的な集団遊びが意欲につながるため、継続する。
教育課程の編成 意欲的な幼児 の育成	A 89% B 11% C 0%	A 81% B 19% C 0%	<ul style="list-style-type: none"> 自然体験の充実により、興味関心が広がった。 他学校園との交流が充実し、他者への関心が増した。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然の変化に気付きやすい環境づくりや、教師の援助を工夫する必要がある。 交流前後の準備も大切である。
指導 多様な個性の 尊重	A 85% B 15% C 0%	A 67% B 33% C 0%	<ul style="list-style-type: none"> 幼児とのやり取りの中から経験している中身を捉えた指導や、発達に応じた個別の対応に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> スモールステップを意識した個別指導により、幼児が自分でできた実感できた。 職員間の連携を強化し、関係機関との情報共有を図る。
環境構成 自ら関わる環境	A 67% B 33% C 0%	A 63% B 37% C 0%	<ul style="list-style-type: none"> 互いに見合える環境や、園児が自ら体を動かしたくなる環境を意識して改善し、戸外遊びが充実した。 	<ul style="list-style-type: none"> 発達に応じた遊具や教材の精選や、場が広がりすぎない工夫を行う必要がある。整理整頓や環境の再構成が大切。
安全 安全管理の徹底	A 44% B 56% C 0%	A 0% B 100% C 0%	<ul style="list-style-type: none"> 安全に遊ぶための決まりの理由を伝えることで、理解が深まった。 安全な遊び方についての共通理解の徹底が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たな安全管理の共有点を教育計画に明記し、年度当初や長期休業明けに、職員間での確認を徹底する。
経営・組織 情報共有と 円滑な連携	A 96% B 4% C 0%	A 79% B 21% C 0%	<ul style="list-style-type: none"> 保育内容や支援の在り方などの相談体制を確立して、日々情報共有をした。 会議時間の短縮に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 早めの立案や情報共有を心掛け、役割の細分化により、全職員の協力体制を生かす。
研究・研修 学び続ける 組織の向上	A 81% B 19% C 0%	A 58% B 17% C 25%	<ul style="list-style-type: none"> 区の研究会や保幼小研修等で公開保育を実施し、夢中になって遊ぶ幼児の育成について学びを深めた。 日頃からの意識を高めるために、週案で意識化した。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師による指導や、異校種の教員との協議により、学びのつながりへの理解が深まるので、継続する。 週案会等、今後も幼児理解を深める時間を捻出する。
出納・経理 計画的・効 果的な執行	A 100% B 0% C 0%	A 98% B 2% C 0%	<ul style="list-style-type: none"> 在庫の把握により、計画的・効果的に購入できた。 教材やPTA会費の集金回数を、年3回に改善した。 	<ul style="list-style-type: none"> 集金業務が軽減し、出納管理が円滑になった。 業務内容の改善点をあげ、適切に執行できるようにする。
情報収集 個人情報管理 人権教育 道徳的芽生 えの育成	A 89% B 11% C 0%	A 79% B 21% C 0%	<ul style="list-style-type: none"> 命の安全教育等、視覚的教材を使用し、計画的に実施した。 人権教育や道徳的な芽生えにつながる教育は、時期を逃さずに指導する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 週単位での意見交換や見通しをもつための時間を計画的につくる。 他園の情報も積極的に取り入れ、改善する。 状況に応じたタイムリーな人権教育が、幼児の理解を深めやすい。

<園行事について>

評価項目	R4	R5	結果	分析
主な行事 豊かな感性の育成	A 93% B 7% C 0%	A 93% B 7% C 0%	・日常生活の延長に行事があることを踏まえ、幼児が無理なく取り組める内容を工夫できた。	・個や学級の実態を考慮して立案し、教員間で協議しながら、日々改善したことが、行事の楽しさにつながった。
家庭連携 連携体制の定着	A 100% B 0% C 0%	A 81% B 19% C 0%	・写真掲示や園長だよりの発信、学級だよりの学びポケット配信、ホームページの保護者の声掲載等、教育内容の発信回数を増やした。 ・園庭開放への参加者が増加し、戸外遊びが充実した。	・教育内容の発信は、時期を逃さずに実施できるよう、業務内容や分担を改善する必要がある。 ・園庭開放日の増加により、人との関わりの広がり、遊びの充実が見られた。
地域連携 地域から学ぶ教育の推進	A 100% B 0% C 0%	A 91% B 9% C 0%	・地域施設の利用や、地域の人との交流が定着した。 ・高校生との交流等、新たな実践により、地域とのつながりが深まった。	・交流の機会を有効に利用して、継続して心を通わせられるような工夫が必要である。
園開放 開かれた幼稚園の実現	A 67% B 33% C 0%	A 53% B 47% C 0%	・未就園児の園開放を増やし新規利用者を得られた。 ・保育園の園庭利用により、自然な交流体験ができた。	・幼稚園開放日が増えたことで、園児が未就園児や保育園児への関心を高め、関わる姿も見られた。
保護者参画 幼児理解と家庭教育力の向上	A 99% B 1% C 0%	A 83% B 17% C 0%	・年2回の親子遠足や全日公開日、保護者の手伝い日の設定等、保護者参加の機会を増加した。 ・PTAの組織改正を実施。	・幼児を思う家庭の理解や協力を得られて、充実できた。 ・PTA活動が精選され、円滑に組織改正できた。自主的な活動も継続できた。

2. 改善の方策

- ・幼児が自ら体を動かす楽しさが感じられるように、集団遊びができるきっかけや、実態に応じた環境づくりを積極的に行う。遊び時間の更なる確保に努め、幼児が自ら動きだしていくような、手に取りやすく扱いやすい環境を整える。
- ・幼児が、自分の考えや行動について振り返ったり、学級の友達と共有したりする機会を継続的に設定し、自分の考えとして実感するとともに、周りの出来事にも関心を向け、自分事として考えることが定着していくようにする。
- ・異年齢・異校種の交流の機会を生かし、交流日前後の過ごし方も計画も位置付けるなど、幼児の気持ちが続いていく保育内容の工夫をする。日常的な交流ができるよう情報交換に努める。
- ・未就園児の会では、引き続き幼稚園開放日を増やし、在園児との交流日も増加して、様々な人との関わりができるようにする。日頃から楽しんでいる保育を交流に取り入れ、幼児が自ら意欲的に動けるようにする。
- ・学級だよりやホームページ等の定期的な発信と、内容の充実にも努め、園の教育内容を周知する。業務内容の効率化を推進し、タイムリーな発信に努める。
- ・安全指導内容の徹底のため、教育計画への明記をするなど、具体的な情報共有を心掛けるとともに、教職員同士の連携を強める。